

平成 2 8 年度第 1 7 回定例会

八王子市教育委員会議事録（公開）

日	時	平成 2 9 年 2 月 1 1 日（祝）	午後 2 時
場	所	八王子市教育センター	3 階 大会議室

第 17 回定例会議事日程

- 1 日 時 平成 29 年 2 月 11 日 (祝) 午後 2 時
- 2 場 所 八王子市教育センター 3 階 大会議室
- 3 会議に付すべき事件
 - 第 1 第 55 号議案 八王子市立学校教職員人事の内申について
 - 第 2 第 56 号議案 八王子市立学校教職員の措置について
 - 第 3 第 57 号議案 八王子市立学校教職員の措置について
 - 第 4 第 58 号議案 八王子市立学校教職員の指導について
 - 第 5 第 59 号議案 八王子市立学校教職員の説諭について
 - 第 6 第 60 号議案 八王子市立学校教職員の説諭について
 - 第 7 第 61 号議案 八王子市指定文化財の指定について
- 4 協議事項
 - ・ 体力向上に向けた八王子市の取組について (指導課)
 - ・ 図書館のこれまでの成果及び今後の方向性について ~ 読書のまち八王子のさらなる進展に向けて ~ (図書館部)
- 5 報告事項
 - ・ 平成 28 年度八王子市学校保健会表彰の受賞校決定について (保健給食課)
 - ・ 平成 28 年度東京都教育委員会表彰 (健康づくり功労) の受賞校決定について (保健給食課)
 - ・ 平成 28 年度全国健康づくり推進学校表彰の受賞校決定について (保健給食課)
 - ・ 学校給食における「姉妹都市献立」の提供について (保健給食課)
 - ・ 特別支援教育地域講座の開催について (教育支援課)
 - ・ 八王子市立小中学校合同作品展第 12 回「おおるり展」の実施結果について (指導課)
 - ・ 第 8 回中学生「東京駅伝」大会の結果について (指導課)

その他報告

出席者

教 育 長	安 間 英 潮
教育長職務代理者	星 山 麻 木
委 員	村 松 直 和
委 員	柴 田 彩千子

教育委員会事務局出席者

学 校 教 育 部 長	廣 瀬 勉
学校教育部指導担当部長	山 下 久 也
教 育 総 務 課 長	小 林 順 一
学 校 教 育 政 策 課 長	小 俣 勇 人
学校複合施設整備課長	内 野 茂 樹
施 設 管 理 課 長	松 土 和 広
保 健 給 食 課 長	野 田 明 美
教 育 支 援 課 長	穴 井 由美子
指 導 課 長	中 村 東洋治
教 職 員 課 長	廣 瀬 和 宏
統 括 指 導 主 事	佐 藤 晴 美
統 括 指 導 主 事	斉 藤 郁 央
生涯学習スポーツ部長兼 国際スポーツ大会推進室長	小 柳 悟
生涯学習政策課長	瀬 尾 和 子
スポーツ施設管理課長	佐 藤 晴 久
学 習 支 援 課 長	新 井 雅 人
文 化 財 課 長	中 正 由 紀
こ ども 科 学 館 長	叶 清
国際スポーツ大会推進室主幹	宮 木 高 一

図 書 館 部 長	伊 比 洋 司
中 央 図 書 館 長	中 村 照 雄
生涯学習センター図書館長	新 堀 信 晃
川 口 図 書 館 長	福 田 秀 之
指 導 課 指 導 主 事	加 藤 則 之
保 健 給 食 課 主 査	安 齋 祥 江
教 育 支 援 課 主 査	山 田 光
指 導 課 主 査	金 子 江理子
文 化 財 課 主 査	金 子 征 史
国際スポーツ大会推進室主査	伊 藤 雅 佳
中 央 図 書 館 主 査	水 越 範 行
教 育 総 務 課 主 査	堀 川 悟
教 育 総 務 課 主 事	廣 瀬 桃 子
教 育 総 務 課 主 事	小 山 ちはる
教 育 総 務 課 嘱 託 員	古瀬村 温 美

【午後2時00分開会】

安間教育長 大変お待たせいたしました。

本日の出席は4名でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成28年度第17回定例会を開会いたします。

本日は、日ごろ仕事や用事で平日の傍聴が難しい方にも、傍聴していただく機会とするため、普段とは異なる曜日、時間で定例会を開催しております。

それでは、本日の議事録署名員の指名をいたします。本日の議事録署名員は、村松直和委員を指名いたします。よろしく願いいたします。

さて、本日の議事でございますが、第55号議案については、人事に関する案件であるため、また第56号議案から第60号議案については、審議内容が個人情報に及ぶため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項及び第8項の規定により非公開といたしたいと思っておりますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 御異議ないものと認めます。

安間教育長 それでは、それ以外の日程について進行いたします。

日程第7、第61号議案 八王子市指定文化財の指定についてを議題に供します。

本案について、文化財課から説明願います。

中正文化財課長 それでは、第61号議案 八王子市指定文化財の指定について御説明させていただきます。詳細は、文化財課、金子主査より説明いたします。

金子文化財課主査 それでは61号議案 八王子市指定文化財の指定につきまして御説明申し上げます。

本件につきましては、平成28年12月14日の教育委員会定例会で文化財保護審議会への諮問を決定し、八王子市文化財保護条例の規定に基づきまして、平成28年12月14日付で、八王子市文化財保護審議会に諮問を行ったところ、平成29年2月9日付で指定することが望ましいと答申を受けましたので、本日議案として提案させていただきました。

詳細について説明させていただきます。八王子市文化財保護条例第4条第1項に基づき、2つの物件を八王子市有形文化財として指定します。

1つ目は、名称「御嶽神社の天然理心流奉納額」、種別は有形文化財（歴史資料）でございます。点数は1点、所在地は八王子市下恩方町1268番地、宗教法人御嶽神社です。

2つ目は、名称「大野家千人同心関係文書」、種別は有形文化財（古文書）、品数は資料など12点になっております。所在地は上野町、郷土資料館内にお持ちになっております。所有者は個人でございます。

次に、議案の関連資料をご覧ください。御嶽神社天然理心流の奉納額の指定理由ですが、江戸時代に多摩地域で盛んであった天然理心流の門下生が安政3年に奉納したものです。現在確認できる天然理心流の奉納額で最も古く、天然理心流の恩方地区での動向が分かる貴重な資料であることから、指定をしようというものでございます。

もう1つは、郷土資料館の寄託資料となっております大野家千人同心関係文書です。指定理由ですが、千人頭である荻原氏が戦国時代に甲斐武田氏の家臣であった当時から明治維新までの古文書などが存在しております。大野家は、その荻原氏に仕えた家柄であり、代々受け継がれた古文書です。体形的に文書が残っていること、本市の歴史から見ても、中世、近世のことが分かる貴重な資料でございます。

なお、2ページ目以降に写真を添付しております。

説明は以上でございます。

安間教育長　　ただいま文化財課からの説明は終わりました。

まず、本案について御質疑はございませんか。

村松委員　　御嶽神社の天然理心流奉納額と大野家千人同心の関係文書、関係文書のほうは八王子市指定有形文化財、これは郷土資料館に預けていただいているという物ですね。もう1つの御嶽神社さんのほうは、これは御嶽神社さんのどちらに額で飾ってあるのか、お答えいただきたいのですが。

金子文化財課主査　　御嶽神社の本殿の中にしまわれております。普段は見ることはできないのですが、かなり状態も良く、神社の氏子さんたちが、かなり丁寧に管理をいただいておりますので、特に郷土資料館で預かることをしなくても、十分管理等は可能だと考えております。

村松委員　　こちらの本殿のほうに、大事な物なのでおしまいになっていると思うので

すが、せっかく有形文化財になりましたので、郷土資料館で展示をお願いしたり、
そういうことは何かお考えになっているのでしょうか。

金子文化財課主査 所有者の意向を確認、調整しまして、郷土資料館での展示を検討
しております。

村松委員 ぜひ、こちらも貴重な物なので、また市民の皆様に見ていただいて、歴史
に触れていただければと思います。

安間教育長 ほかに御質疑はございませんか。

星山委員 いただいた資料だと、白黒印刷で見えにくいかなと思うのですけれども、
保存されている字のかすれぐあいといいますか、そういうところは実物と違うのか
なという気がいたしますが、保存状態などはどのような感じでしょうか。

金子文化財課主査 額につきましては良好です。また、古文書につきましても郷土資
料館の温度の調整できる部屋がありまして、既にこちらで管理しておりますので、
状態は悪くないと考えております。

柴田委員 こういった古文書などは、特に個人の旧家で持っていて、代が変わると、
それがどこにあるのか分からなくなってしまうことがあると思います。貴重な物で
るので、市で管理に努めて、これからも積極的に保存に努めていただきたいなとい
うふうに思います。

金子文化財課主査 私どもは情報をいただければ、その方のお家をお尋ねしまして文
書を見させていただいたり、場合によっては預らせていただいたりということ
を積極的に取り組みまして、市の貴重な文書類のほうを進めていきたいと思ってい
ます。これからも努力していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

安間教育長 よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 ほかに御質疑はないようでございますので、本案についての御意見をお
伺いしたいと思います。御意見はございませんか、よろしゅうございますか。

私から1点、今回2件、こうやって指定をするわけですがけれども、今審査待ちの
ものもあるわけですね、検討している案件など大体でいいのですけれども、どれ
ぐらいあるのですか。

中正文化財課長 具体的に、すぐ指定に取り組めるようなものについては、まだ決定

しておりませんけれども、郷土資料館または文化財課への情報提供、いろいろございますので、状況を確認の上、今後とも順次、順番に指定をしていきたいと考えております。

安間教育長 我々の事務手続のせいで、貴重なものが劣化してしまうなど、そういうことがないように注意してまいりましょう。

それでは、本案についてはよろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 それでは、意見もないようでございますので、お諮りをいたします。

ただいま議題となっております第61号議案については、提案のとおり決定するというところで御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 御異議ないものと認めます。

よって、第61号議案については、そのように決定することにいたしました。

次に、協議事項となります。

まず、体力向上に向けた八王子市の取組についてを議題に供します。

本件について、指導課から説明を願います。

斉藤統括指導主事 それでは、体力向上に向けた八王子市の取組について報告いたします。詳細につきましては、資料とプレゼンテーションにて、担当の加藤指導主事より説明いたします。

加藤指導課指導主事 初めに、体力テストの向上について御説明いたします。スクリーンをご覧ください。

体力テストではお示したように、3種類の調査がございます。一番上の体力運動能力調査は、6歳から79歳までの全ての年代の数値を把握することができますが、抽出で行われるため、その年代の全員による全数調査ではありません。2番目の全国体力運動能力運動習慣度調査は、全国の国公私立の小学校5年生と中学校2年生の全ての児童・生徒に対して実施するものです。一番下の東京都児童・生徒体力・運動能力、生活運動習慣度調査は、都内の公立学校に在籍する全ての児童・生徒に実施しております。

今回は、東京都の体力調査の結果をもとに、小学校5年生と中学校2年生は全国

の調査の結果、それ以外の学年については一番上にございます体力・運動能力調査の結果を全国平均値として分析しています。

体力テストの実施種目は、3つの調査全てで共通しています。小学校ではご覧いただいているとおり、握力から上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20メートルシャトルラン、50メートル走、立ち幅跳び、ソフトボール投げと、合計8種目を実施します。中学校では、小学校で実施する8種目に持久走1,000メートルが追加され、ソフトボール投げのかわりにハンドボール投げを実施いたします。合計9種目です。これらの種目は、体力の5項目を測るために設定されたものです。画面の右下にある力強さのように、5種目の結果から複合的に判断する能力もございます。

続いて、東京都の体力調査における八王子市の平均値について分析結果を御説明します。配付いたしましたお手元の資料をご覧ください。1枚目、2枚目に、八王子市の男女の平均値について、学年ごとに種目別で示しました。

表の見方について御説明します。スクリーンをご覧ください。大きく上半分に示している数値が該当学年の、それぞれの種目における八王子市の平均値です。今年度のものになります。そのすぐ右下にある数字は、今年度の八王子市の平均値と全国平均値との差です。八王子市の数値をもとにして、プラス・マイナスで示しています。プラスのものは、全国と比べて八王子市の平均値が高いことを表しています。一番右下にある数字が、該当学年の1年前の調査における全国との差です。小学校2年生以上の学年は、同一児童・生徒の昨年度のものを示しています。例えば小学校2年生は、昨年の1年生のときの数値を掲載しています。

最後に、上向き・下向きの矢印は、全国平均値との差が昨年度から今年度にかけて、どう変化したかを示しています。画面をご覧くださいますと、昨年全国平均値より0.5ポイント低かった八王子市の平均値が、今年度は全国より0.2ポイント高くなったため、上向きの矢印になっております。

続いて、男女それぞれの市の平均値を見ていきます。男子の資料をご覧ください。昨年度からの変化に注目すると、全国平均値との差において向上している種目は、このようになります。塗り潰した欄の学年、そして種目は上向きの矢印になります。お手元の資料を見ていただきますと、今年度の八王子市の男子の傾向が明ら

かになってきます。反復横跳びの欄を縦に見ていただきますと、全国と比較して向上している学年が多いことがわかります。一方、50メートル走と立ち幅跳びの欄を縦に見ると、差が広がっている学年が多いです。また、学年ごとに表を横に見ていきますと、小学校2年生、中学校2年生、3年生は、全国と比べて向上している種目が多いです。

同様に、女子の結果もご覧ください。2枚目の資料になります。昨年度からの変化、矢印の向きに注目すると、全国平均値との差において向上している種目は、このようになります。男子と同様に女子も、塗り潰した欄の学年、そして種目は上向きの矢印になっております。お手元の資料を見ていただきますと、同様に女子の傾向が明らかになります。反復横跳びと立ち幅跳びは、全国と比較して向上している学年が多いです。一方、長座体前屈と20メートルシャトルランは、差が広がっている学年が多いことがわかります。また、学年ごとに表を横に見ていきますと、小学校2年生、4年生は全国と比べて向上している種目が多いです。

男女それぞれ傾向がありますが、続いて昨年度より改善を図るための取り組みを各学校に呼びかけてきたソフトボール投げ、ハンドボール投げの数値をご覧ください。男子、女子ともに右端の体力合計点の隣にございます。ソフトボール投げ、ハンドボール投げを縦に見ていきますと、中学生を中心に向上している学年があることがわかります。しかし、全国平均値との差そのものは、全ての学年がマイナスになっています。取り組みは進めているものの、依然として全国との差は大きいのが現状です。

ただ、そうした中で児童・生徒の投げる力を向上させるため、独自の取り組みを行った学校がございます。今回は、それらの学校のうち、取り組みが結果に結びついた学校を御紹介いたします。配付した資料の3枚目、別紙をご覧ください。資料には6つの学校の取り組みについて記載してありますが、本日はその中で2つの取り組みについて御説明します。

B小学校の取り組みについてです。こちらの小学校は、女子プロ野球選手やバスケットボール、八王子トレインズの選手をお呼びし、児童に直接投げ方の指導をしていただきました。投げるときのひじ、肩、足の動かし方を丁寧に指導してくださいました。こちらは、そのときの様子です。投げるときのフォームについて教えて

くださっているのがわかります。こちらの写真も、指導を受けているものです。タオルを使用して、投げるフォームを指導していただいています。また、こちらの学校は校舎の外側に紐をくくりつけ、そこに道具を通して児童が休み時間などに使えるようにしました。遊び感覚で投げる動きを身につけられるようにと、先生方で考えたそうです。これが、その道具を使っている写真です。校長室の外側につけられており、子どもたちが自由に使えるよう工夫されています。

このようにして投げる力を高めるための取り組みを重点的に行ったところ、画面のような結果があらわれました。今年度の5年生の数値と、その5年生の昨年度の数値を全国と東京都の平均値と比較してみました。男女ともに、大きく向上したことがわかります。

もう一校、F中学校の取り組みを御紹介します。こちらの中学校は週に1回、部活動の合同朝トレーニングを行っています。このトレーニングは7時半から8時まで、運動部に限らず、どの生徒でも参加できる形をとっています。そこでジャベリックボールという道具を用いて投げる力の向上を図っています。この道具は体の使い方に注意して上手に投げると空中で音が鳴るもので、投げるときの手首やひじの使い方を体で覚えることができます。こちらが、そのジャベリックボールです。先端はやわらかい素材でできていて、当たっても痛みを和らげられるようになっています。学校には十数個、このジャベリックボールがあり、ぶつからないように並んで投げ合っています。また、こちらの学校では保健体育の授業で、投げ方の指導を丁寧に行っています。球技の時間に重点的に投げるときの体の向き、足の動かし方など、下半身にも目を向けて、一人ひとりに指導をしています。学校を訪問して保健体育科の先生から話を聞くと、投げ方のポイントを丁寧に教えたことが投げる力が向上した最大の要因と言っていました。

このような取り組み、指導を行ってきたところ、画面にあるような結果が出ました。2年生男女の今年度の数値と、その2年生が1年生のときの数値を全国と東京都の平均値と比較してみました。男女ともに非常に大きく向上していることがわかります。

これらの分析や取り組みから、今後取り組むべきことを4点にまとめました。

1点目は、体力テスト実施前の事前練習です。6月の実施に向けて、事前にそれ

それぞれの種目のコツを指導し、練習する場を設けることを学校へ助言いたします。今年度、既に事前練習を実施している学校があり、効果を上げています。

2点目は、体力向上推進計画の作成です。各学校が来年度の計画を立てる際に体力向上推進計画を作成し、学校の課題を明らかにし、数値目標を設定して、重点的に改善を図っていきます。

3点目は、トップアスリートやプロスポーツ選手の招聘です。トップアスリートなどを学校に呼び、専門的な指導やアドバイスを活用して体力の向上を図ります。2020年東京大会に向けたオリンピック・パラリンピック競技と関連させていくことも、ひとつの手段であると考えております。

4点目は、体力向上にかかわる研究推進校の取り組みを広く周知することです。小学校ではアクティブライフ推進校、中学校にはスーパーアクティブスクールが1校ずつございます。2校とも体力向上を目標として研究を進めております。これらの先進的な取り組みを各学校が取り入れられるよう、指導、助言を行ってまいります。

ここでは、この2校のうち、小学校のアクティブライフ推進校の取り組みを最後に御紹介します。画面をご覧ください。こちらの小学校は、金曜日の中休みだけ30分間の時間を設定し、アクティブタイムとして全校児童が体を動かす時間を設定しています。映像は、この時間の取り組みです。さまざまな種目に非常に楽しそうに取り組んでいる姿が見られます。また、全ての種目に教師がついて、一緒に活動する様子もわかります。こちらは「全力道路」というネーミングで、投げる力を向上するために行っている映像です。こちらのネーミングは、「芝生でゴー」と名付けております。こちらも同様に、芝生で行っている取り組みになります。これは体育館で先生と一緒に踊っている姿がわかりますが「ダンシングモーニング」という名前がつけられています。

私からは以上です。

安間教育長 ただいま指導課からの説明は終わりました。

それでは、本件について御質疑、また御意見等も交えて、いかがでございましょうか。

村松委員 とてもわかりやすい報告でした。また今回、この資料をつくるに当たって

細かい作業で大変だったと思います。ありがとうございました。

協議事項ですので、現状等を先にお聞かせ願いたいのですが、別紙の折り込みの E と F で、これを見ますと男女もそうなのですけれども、中学校の先生方が遠投力等、かなり指導に頑張ってくださいったと思うのです。その結果が多分出ていると思うのですが、A から E までの小学校の授業で特別活動を行った学校の生徒も記録がかなり伸びておりますし、5 年の女子に限っては全校で、かなり上回っている子がいらっしゃるのです。ですから、こういう丁寧な投げ方ひとつとっても一生懸命教えていただくと子どもが反応して、少しずつでも上がっていくというのがわかりました。

ただ、やはり数字だけを見てしまいますと、全国の差というのがありますよね、八王子市は低いというか遅れをとっているふうに見えてしまうのですけれども、教員の丁寧な努力と子どもたちの向上心がマッチすれば、格段に上がると思うのです。

昨年の体力向上のことでお話させていただいたのですが、少しひじを肩の上まで上げるのだよということだけでも 2 メートル、3 メートル伸びた子がたくさんいました。遠投力というのは腕だけの力で投げるということではなくて、全身運動なのです。ですから腰の使い方ですとか、また足さばきですとか、そういったことも丁寧に教えると、きっと伸びていくと思います。

お尋ねをしたいのですけれども、遠投力、体力でもいいのですが、東京都の中で八王子というのは、どのぐらいの位置についているのですか。

加藤指導課指導主事 東京都の平均値と比べますと、市の平均値は高いです。ただ、全国の平均値に、中学校に関しては届くようにということで、市として目標を設定しております。また、小学校に関しましては、非常に高い数値を東京都としても出しておりますので、小学校に関しましては全国の上位県の数値に届くようにということで、目標を設定しております。

村松委員 私自身も、遠投力というのはとても魅力的なスポーツの 1 つの要因だと思っております。そこで、これから競技というか、していきたいなと思っている事項がございます。実は、昨年 12 月 13 日に、日本プロ野球選手会の皆さんと御縁をいただきまして、式分方小学校と第五中学校において、元ヤクルトの荒木大輔さん、元ソフトバンクの斉藤和巳さん、元ジャイアンツの平岡正樹さんの 3 投手をお呼び

いたしまして、プロ野球選手会で発案しましたキャッチボールクラシックというスポーツ競技がございまして、これを教えていただきました。1チーム9名から11名、奇数でチームを組んで2分間に何回できるかということを経うスポーツなのですが、小学生も中学生もキャッチボールを全くやったことがない子がたくさんいるのです。受け取り方、投げ方を丁寧に教えていただいたら、最初はチームで組んで5、6回しかできなかつたのが1時間後には20回できるようになったのです。プロの選手たちの魅力もあったかもしれませんが、非常に丁寧に教えていただいて、かなりレベルが上がったというふうに私は見てきました。

キャッチボールというのは、ただ単に投げるのではなく俊敏性ですとか足腰の筋肉を使う全身運動で、さらに相手の胸元に向かって取りやすいボールを投げるという思いやりのスポーツでもあるので、ぜひ教育委員の皆様にも見ていただいたり、やっていただいたりして、八王子市内の子どもたちの体力向上の一環として取り入れていければなというふうに思っております。

その辺も御協議いただければなと思っておりますが、いかがでしょうか。

安間教育長 ありがとうございます。今、委員からお話があったキャッチボールクラシック、私も何度も見させていただいたのですが、複合的な効果があって、いいなと思います。選手会の人たちが拠点になる場所を、地区を探している最中だということで、早目に我々も手を挙げれば、彼らが重点的に回ってくると、本市の子どもたちのためになるのではないかなと思っておりますから、これは我々教育委員会のほうも、学校に無理のない形で推奨していくと、それはよろしゅうございますか。

その件に限らず、ほかにも何か御意見がございましたら。

星山委員 まず1点目なのですが、毎年この体力調査、学力のこともありますけれども、報告を伺いますが、今年も、また工夫されていて、やはり結果も気になるのですが、それよりも大切なのは子どもたちの意欲や、先生方がどれだけ工夫していらっしゃるかということに関して、いかに私たちが応援するかということだと思いますので、今回の発表は大変わかりやすく、私も非常に勇気づけられましたので、お礼申し上げたいと思います。

それから2点目なのですが、もちろん全国の結果とか都の結果とか、いろ

いる比較して数値だけ見ますと、心配になることもあるかと思いますが、しかしながら今取り組みを拝見しますと、何より子どもたちの向上が見られる、学校の取り組みを見ますと、非常に生き生きとしている姿を見ましたので、ぜひプロセスを大事にさせていただきまして、評価も数値だけに引っ張られることなく、もちろん励みにはなると思うのです。ですが、取り組むという意欲のところを応援していただけたこともいいと思いますし、これからも八王子はそういうやり方で結果だけ見るのではなく、とにかくやっつけていこうと。うまくいなくても、またこれから向上していこうというような勇気づけが大切かなというふうに思いました。

3点目なのですが、うまくいっている様子を実際に見せていただきましたが、非常に楽しいとか自分から体を動かしたくなるという意欲付け、文部科学省も言っていますが、まさにアクティブラーニングであるとか自分で選択して、自分で遊びを開発する。そのところが、これから大切かなと思いましたが、非常にいいなというふうに思いました。

4点目は、これからの課題かなと思うのですが、学校だけでは限界がある。これは毎年申し上げている気がするのですが、家庭、それから地域、子どもが外で遊べて、ボールを投げて、お友達と一緒に走り回れる環境がどこにあるのかという視点から考えますと、八王子だけではなくて、コミュニティづくりが重要だと思うので、八王子は、これからコミュニティースクールのことであるとか、地域の方たちにもぜひ応援していただき、プロ野球選手の話も出ましたけれども、一緒に体を動かすって非常に楽しいことですし、場をつくっていくということは、私たちはとても大事かなと思います。

昔に比べて学校の校庭に置いてある遊具とか公園や遊び環境、外遊びの環境を守るということに関して相当注意していかないと、あっという間に失われていくことかなと思いますので、その辺のところも八王子では力を入れていけたらいいかなというふうに思いました。

柴田委員 意見を2点述べさせていただきたいと思います。今のプレゼンですけれども、子どもたちがとても楽しそうに生き生きと教師と一緒にあって取り組んでいる様子を見まして、大変嬉しく思いました。

まず1点目なのですが、こういった体力調査というものは事前の練習というのも

もちろん大切で、そこで技術を鍛えると数センチ伸びるとかタイムが縮まるというようなこともあるかと思いますが、柔軟性とか筋力など、技術力だけでは計測できない部分というのは、日ごろの運動というものがものを言うと思います。そこで先ほど星山委員がおっしゃいましたように、地域連携というところで、例えば放課後子ども教室などで、こういった要素のある遊びを積極的に取り入れて、子どもたちが楽しく取り組めるような環境をつくるということが、我々がしなければならないことだと思います。

それから2点目ですが、オリンピック・パラリンピック教育と関連づけてトップアスリートやプロスポーツ選手を積極的に招聘していくという話や、先ほど村松委員からお話がありましたキャッチボールクラシックという取り組みなどで、子どもたちがトップアスリートと触れ合う機会というものが八王子市の子どもたち、これからたくさん機会が増えると思いますが、こういったときにスポーツの技術だけではなくて、なるべくスポーツ選手と子どもたちが会話をしながらスポーツに取り組むという環境をつくるように配慮しまして、どうやったら野球選手になれたのかとか、どうやったらタイムが出たのかとか、そういった努力をどのように選手たちが積み重ねていったのか、どういうふうに目標を設定して、どういう取り組みをしたのかということは大きな観点から捉えると、子どもたちのキャリア教育というところにつながっていくと思いますので、そういったところも配慮しながら、総合的に体力向上というところに取り組んでいけたらいいというふうに考えております。

安間教育長　　おおむね村松委員の御提案をいい機会として、御賛同の御意見がありまして、私も賛同するのですが、村松委員いかがでしょうか。

村松委員　　ありがとうございます。実は昨年も体力向上のことで話をしたのですけれども、星山委員や柴田委員もおっしゃっているように、私は学校の中で、こういうしっかりとした取り組みをして、その後自宅に帰ってから友達同士で公園に行ったり、庭先でキャッチボールをして、みんなで遊んだり、取り組むということが大事だと思っております。

公園課にお話を聞いたのですが、キャッチボールということはできるのですかと聞きましたら、どこも出来ないですというふうにお返事をいただき、公園課の方たちも、もっと子どもに遊んでもらいたいという思いがあると思うのですが、子ども

の笑い声が全く聞こえない公園、これはちょっと日本はどうなっているのかなというのが一番に思うことなのです。

今回のキャッチボールクラシックで一番いいというふうに思ったのは、このキャッチボールは素手でも取れるような「ゆうボール」というのを使いまして、ガラスに当たっても、よっぽどのがない限り割れない、逆にそれが飛び込んで割れたとしても、ボール自体に保険をかけて教育委員会が面倒を見るよと、みんな一生懸命キャッチボールしなさいよというような取り組みで、子どもたちが笑顔で楽しく、大きな声でキャッチボールができるような、そういう町にしたいなという思いがあります。

3月3日に第四小学校で、元日ハムの森本稀哲さん、楽天イーグルスの大廣選手が来てくださりまして、指導と対抗試合をしてくださる計画になっていますが、この日はテレビ取材が入りまして、その模様も放映されるという取り組みをしています。なぜかと申しますと、それを八王子市民が見て、そういう公園近くの住民ですとか大人が見て、こういう取り組みをやっているのだな、子どもたちにもっと練習をしなさいと、少しでも理解者が増えるような、そういう取り組みの一環でもあるので、野球に限らずサッカーボールを蹴るのもいいですし、鬼ごっこでもいいですし、理解を示してくださる保護者、大人たちがどんどん出てきて、一緒になって見守りながら、子どもたちが集える学校に、これからもしていきたいなというのが、このキャッチボールクラシックを取り入れた一番の理由です。子どもたちの体力向上の一環として進めていければ、これ以上嬉しいことはないので、ぜひ皆さん関係各所、いろいろと協議しながら進めていきたいというのが私の一番の願いと思います。

安間教育長 御意見いただきましたけれども、今のお話のとおり何らかの手法で、子どもたちに単に技術を教えるだけではなくて、柴田委員からもキャリア教育の視点の話もありましたが、そういった機会にしていきたいという思いはあるわけですが、漠然とやりましようと言っているけれども、いつまでたっても進まないで、今回村松委員がいい話をもってきてくれたわけですから、それを取っかかりにして、子どもたちに具体的に何らかの手立てを打っていくのは、みんなで協力して進めてまいりましよう。

同時に今の話の中で、今回子どもたちが去年よりも伸びているのだと、発達で体も大きくなっていくわけですから、当たり前と言っては当たり前なのですが、1つの指標として国全体の、日本の子どもとの平均値の差が縮まったとか、より伸びたとか、そういうような変化を見ていってあげたいというのが我々がいつも話していることですよね。せっかく昨年よりも遠くまで投げられるようになったけど、全国よりも低いではないのと言われれば、やる気なくしてしまうので。そういった意味での子どもたちへの取り組みの仕方というのは、これまで教育委員会でお話をしているとおりでと思っています。

最後に、星山委員から学力の件もそうだったというようなお話で御確認がありましたけれども、昨年来教育委員会では調査というものに関して上か下か、何々と比べてどうかなんていうことを我々は気にせずに、一人ひとりの子どもに着目したときに、どれだけ伸ばしてあげることができたのかに着目しましょうという話し合いをずっとしてきました。

ちょっと心配なので1点だけ御注意しておきますが、3枚目の今後の方向性の1個目、体力テストを実施する6月以前に各学校において云々と書いてありますけれども、これが体力調査のときの数値を伸ばすためになんて目的化しないように、これはしてあげてもらいたい。むしろ調査をした後で、実力が十分発揮できなかった子どもたちに対する手だてを、そこから始める。その結果として、その翌年、その子が伸びる。そのほうが理想的なのかなという点だけは、付け加えておきます。

委員の方々に御協議いただきました。以上の協議を踏まえて、今後事業を進めていただければというふうに思います。

それでは続きまして、図書館のこれまでの成果及び今後の方向性について～読書のまち八王子のさらなる進展に向けて～を議題に供します。本件について、図書館部から説明願います。

中村中央図書館長　それでは協議事項としまして、図書館のこれまでの成果及び今後の方向性について御説明いたします。

本市では平成16年3月に読書のまち八王子推進計画を策定し、市民の読書環境の改善に取り組んできております。計画の対象を子どもに限定した読書計画は一般的ですが、市民全てを対象とした読書計画は、全国を見ても多くはありません。読

書のまち八王子推進計画に取り組んで13年が経過し、計画も第3次計画となっていることから、読書のまち八王子のさらなる推進に向け、本市図書館として今後の進むべき方向性について御協議をお願いいたします。詳細につきましては、中央図書館水越主査から御説明申し上げます。

水越中央図書館主査　それでは、図書館のこれまでの成果及び今後の方向性について御説明いたします。スライド2をご覧ください。

初めに、図書館のこれまでの取り組みについて御説明いたします。施設整備の歩みを年表にまとめました。八王子の図書館設置は古く、多摩地区初の公共図書館として明治44年、天神町に開館したのが始まりです。その後、昭和30年、図書館が東京都に移管し、東京都立八王子図書館となり、以後、昭和48年に移動図書館が運行されるまで市立図書館がない状態となっていました。昭和60年中央図書館が開館、その後、南大沢図書館、川口図書館、生涯学習センター図書館と順次整備を進めてきました。平成18年に地区図書室を分室とした地域住民と協働運営方式の北野分室が開室、その後、平成27年にみなみ野分室が開室し、現在4図書館、2分室体制となっております。

スライド3をご覧ください。これまでの事業成果ですが、まず子どもの読書環境充実の取り組みでは、市が実施する3、4カ月児健診にあわせ、赤ちゃんと保護者が絵本を介して心触れ合う時間をつくるきっかけとなるブックスタート事業を行っております。1、2歳児を対象としては、ぴよぴよ絵本の時間などの名称で読み聞かせや手遊びなどに取り組んでいます。また、3歳児健診の際には、図書館員による読み聞かせと絵本に親しむ時間を設けております。

このように、0歳で初めて絵本に出会うブックスタートに始まり、3歳児健診の受診時まで継続的に、図書館員が子どもと保護者に絵本の楽しさを伝える機会を設けております。

スライド4をご覧ください。学校に関する取り組みでは、図書館の利用機会が減り始める中学生を対象に、図書館の仕事を体験する夏休み中学生ボランティアを実施しております。さらに学校での読書活動を支援するため、学校図書館支援サービスとして、学校に対し図書館資料の貸し出しを行っております。また、八王子市には多数の大学があることから、八王子市民が大学図書館を利用できるよう働きかけ

を行ってきました。八王子の良さを知ってもらえるよう、大学図書館内に八王子関連コーナーの設置をお願いし、10大学に資料を提供しております。

スライド5をご覧ください。図書館運営に関する取り組みを一覧にしました。市民の読書環境の改善に努める主な取り組みを挙げますと、平成15年に多摩地域で初めての通年開館を中央図書館と生涯学習センター図書館で開始しました。また、平成19年には町田市と図書館相互利用協定を締結、翌20年には日野市、多摩市など、京王線沿線7市と協定を締結するとともに、あきる野市とも相互利用協定を締結しました。

スライド6をご覧ください。これまで図書館の取り組み成果を説明しましたが、事業を実施してきた中で見えてきた課題があります。

1つ目としては、身近な場所での読書に親しめる環境づくりです。平成25年度市政世論調査において市民の4割の方が図書館を利用しているという結果が出ましたが、遠い、開館日や開館時間中に利用できないといった理由で図書館を利用しないという回答がありました。本市の6館という図書館数は、多摩地域の平均図書館数5.8館を若干上回ってはいますが、より多くの市民の方に図書館の利用促進を図るため、既存施設の活用や、より身近な場所に図書館を整備することが必要であり、市民センターにある地区図書室の図書館分室化が、第3次計画の大きな目標の1つであります。

スライド7をご覧ください。2つ目の課題は、小・中学生に読書の楽しさを伝えることです。インターネットやスマートフォンの普及による読書離れや図書館離れが進んでおり、特に中学生は勉強や部活動などで多忙なこともあってか、図書館を利用する子どもが少なくなっています。さらにSNSの普及により長文を読む機会が減少することで、児童・生徒の読解力が課題とされています。小中学校での読書週間が生涯にわたる読書週間につながることから、児童・生徒が本に触れ合う機会を充実させるため、図書館と学校とが連携して取り組むことが重要であると考えます。

スライド8をご覧ください。3つ目の課題として、時代の状況に対応した図書館運営については、例えば子育て中の親子が伸び伸びと本を選べる環境や、中高生がグループで会話をしながら勉強できるスペース、またゆっくり静かに読書や自習が

できる空間など、多様な要望にこたえていくためには、現在の施設では対応が難しくなっています。そこで、そういった要望に応えていくために、複合施設で機能を充実していく必要があると考えます。

スライド9をご覧ください。これらの状況を踏まえた上で、ここから今後の八王子市図書館の進むべき方向性について御説明いたします。

まず、身近な場所で図書館利用についてですが、平成27年に開館した中央図書館みなみ野分室の利用状況は、地区図書室のときと比べ、貸出数7.2倍、入館者数4.4倍となりました。利用者の9割以上が地域の方で占められ、そのうち子育て世代と高齢者の方の利用が約7割となっていました。これらの検証結果からもわかるように、より身近な場所で読書環境の充実を図る必要性があることから、市民と協働し、地域交流機能を兼ね備えた図書館ネットワークの再構築を図る必要があると考えます。

スライド10をご覧ください。方向性実現のための方針として、市民センター内にある地区図書室13カ所を順次図書館ネットワークに統合し、地域の方と協働して運営していることをより明確にするため、名称を市民図書館に変更します。地域の意見を取り入れ、今まで培ってきた地域コミュニティの場を活かした身近な図書館を目指します。

スライド11をご覧ください。八王子は市域が広く、地域それぞれに特色を持っています。地域ニーズを把握し、そのニーズにあわせた図書館づくりを進めていきます。例えば子どもや子育て世帯の多い地域は、絵本や子育て関連図書といった子どもに視点を置いた市民図書館に。高齢者の利用が多い地域では高齢者が好まれる歴史小説を中心とした市民図書館。また、歴史や観光資源のある地域については資料館的な要素をもった市民図書館にするなど、地域住民と協議し、意見を取り入れた図書館を目指します。

スライド12をご覧ください。方針の3つ目として、地域交流機能の強化を図ります。地区図書室の担っていたコミュニティ機能をそのまま受け継いだ上で、毎日図書館に人がいる状態となる点を活かし、地域住民の交流・憩いの場として、また子どもが安心していられる空間を提供する役割が担えると考えます。

スライド13をご覧ください。現在の図書館の位置と、今後整備予定の市民図書館

館の位置を地図上に表示しました。現在北部地域と西南部地域には図書館がありませんが、市民図書館を開館することで、より身近な場所で読書に親しめる場所を提供することができるようになります。子どもや高齢者がより身近な場所で図書館を利用できる環境の整備を進め、市域全体をカバーすることで図書館数は19館となり、東京都で一番図書館が多い、他市に誇れる文化学園都市となります。

スライド14をご覧ください。今後の図書館の進むべき方向性の2点目は、図書資源の共有化です。図のとおり、子どもの読書環境の充実には図書館と学校との連携・協力が不可欠です。連携強化項目は2点あり、図書館から学校への資料提供の充実と、平成31年度導入予定の学校図書館システムを活かした連携の充実となります。

スライド15をご覧ください。図書館から学校への資料提供の充実ですが、図書館は資料センター的な役割として学校をバックアップしています。グラフで示しましたが、平成22年度に始まった学校配送便は、学校司書の派遣人数の増加に比例して、年々利用学校数、貸出冊数ともに増加しており、平成27年度は22年度と比較し、利用学校数が1.25倍の85校、貸出冊数は3.12倍の2万9千513冊となっています。今後も調べ学習用資料、学級文庫用図書の充実とあわせ、児童・生徒が読書に興味をもてるような図書の提供を目指します。

2つ目の今後導入予定の学校図書館システムを活かした連携の充実では、学校図書館と公共図書館が1つのシステムで統合されるメリットを活かし、共通の利用者カードの発行を進めるとともに、児童・生徒が学校にない本を図書館に予約し、学校で受け取れる仕組みの検討を進めます。

スライド16をご覧ください。今後の図書館の進むべき方向性3点目となる学び・交流・集いを促進する憩いライブラリについては、平成28年3月に策定された八王子医療刑務所移転後用地活用計画の施設コンセプトに沿い、憩いライブラリの実現性を協議しております。家庭や職場、学校と異なる居心地のよい第三の居場所としてのサードプレイス機能と、学び・交流・集いなどの機能をあわせもった複合施設として、にぎわいの創出を目指しています。

こういった複合施設について参考に2カ所紹介いたします。スライド17をご覧ください。1つ目は、武蔵野プレイスです。図書館機能を中心に生涯学習、市民活

動、青少年活動の支援を複合的に行う施設となっており、カフェも併設されています。開館から6年が経過していますが、図書館離れの中高生が多く集う施設として、今なお全国から見学が絶えない状況です。

スライド18をご覧ください。2つ目は、富山市立図書館です。市立ガラス美術館、図書館本館、富山第一銀行が入る複合施設です。特徴的な外観で、内部は2階から4階まで美術館と図書館のフロアを半々で使っており、両施設の融合に視点を置いた施設となっています。

以上、図書館部が行ってきた取り組みと、図書館が取り組むべき課題について御説明しました。いつでも、どこでも、誰でもが読書に親しめる環境の整備を図り、読書のまち八王子の実現に向け、取り組みを進めてまいります。

説明は以上です。

安間教育長 ただいま図書館部の説明は終わりました。

本件について御質疑、また御意見等、委員の方からお伺いしたいと思います。

柴田委員 非常に意欲的に、図書館を充実化させようという意気込みが伝わってくるようなプレゼンをありがとうございました。八王子市では分室を図書館にするなど、これから図書館を充実させていくという方向性での取り組みがあるということを楽しみにいたしております。

図書館ですが、子どもの居場所ということを考える、子どもだけではなく市民全体の憩いの場所というふうに捉えられますが、特に子どもの居場所ということが最近の社会課題となっています。家庭、学校、地域に子どもの居場所というときに、先ほど事例紹介いただきました、例えば武蔵野プレイスなんかは若者の居場所づくりという事業を積極的に行っていて、例えばプレゼンの写真にもあるように、若者が活動しやすいような施設が充実してあったり、それからロビーワークというようなことも行っていて、いわゆる子どもたち、特に中高生にとって斜めの関係と言われる保護者や教師以外の地域の大人であるとか、学生のボランティアがそこに行って、気軽に中高生たちの話を聞いたり悩みを聞くというようなことをしているというように、従来の図書館事業の枠を超えたことをしている図書館が、これからは生き残っていくというか、求められているというふうに思います。

いかに市民の居場所となり得るかという工夫が、これからの図書館づくりには大

切でありまして、例えば高齢者が多く集う地域の図書館などには、生涯学習の事業のほうと連携をして、例えばオレオレ詐欺から高齢者を守ることが必要であるというならば、高齢者がたくさんいるところで生涯学習の講座を15分とか20分だけやるとか、例えば健康講座のことであるとか。

このように、今は小さいお子さんをもったお母さんと図書館というところの関係がうまくいっているようですけれども、もっと幅広い世代の市民の居場所となり得るような図書館づくりというところに、ぜひ取り組んでいただきたいというふうに思っております。

安間教育長　ほかに、委員の方から。

星山委員　先ほどのプレゼンに続き、今回のプレゼンも大変見やすくて意欲も感じられ、いつもと違う会場だからなのか、偶然なのかわからないですけれども、大変すばらしかったです。私も柴田委員がおっしゃったことと重複するところがありますが、これからの図書館ということに関しまして3点ほど絞って、感想もあるかなと思いますけれども。

1点目は、教育の問題と絡めますと、学校でも家庭でも居場所がない子どもたちが増加しておりまして、しばしば図書館が居場所になるというようなことがわかってきています。有名な例は、9月1日に、もし学校に行きたくないなら図書館においてというようなことを司書さんがメッセージを出しまして話題になったこともありましたが、居場所であるコミュニティづくりということに関して、図書館はこれから大きな役割を果たしていくのかなと思っておりますので、今見せていただいたようなことは大変大事かなと思います。

私もいろいろなところを視察させていただく機会があるのですが、一例を御紹介しますと、関西のほうに西脇市という市があると思いますけれども、赤ちゃんと中学生が外遊びをしている複合施設がありまして、そのわきで中学生たちが宿題をやっている。外で、息抜きしている中学生と赤ちゃん、子育てしているお母さんたちが近くでピクニックをしているという風景を見まして、当たり前だったのかもしれませんが、すごく久しぶりに見る風景だと思ひまして、こういうことをかなり意図的に市民が集まる場で私たちが創出していかないと、失われていくこともたくさんあるのではないかなと思っておりますので、これから取り組まれるときに、多世

代の方たちが本を読むとか図書ということを共通の居場所として、また再び交流できるといいなと思いました。

2点目なのですが、先ほどおっしゃっていた複合化というのは、これから非常に重要かなと思います。例えばカフェなのですけれども、以前御提案申し上げたときに、図書館は図書館でカフェはカフェだというようないろいろな御意見もあったのですが、私は個人的に、これからいろいろな機能をもっていくということが、市民が気軽に行かれるということの1つの条件になるかなと思いますので、例えば福祉カフェであるとか、いろいろな方たちが働けるような場所というのも、非常に可能性として持っているのではないかなと思いますので、何か新たなスペースづくりのときには、ワークショップができる、勉強ができる、あるいは子どもの図書館がある、あるいは市民活動ができるということが、これからの方向性かなと思って楽しみにになりました。

3点目なのですけれども、先ほど柴田委員もおっしゃったように、生涯学習の話がありましたが、私は図書館というのは1つの社会教育をする大切なコミュニティづくりにつながる場所であるというふうに日ごろから思っていて、私の専門で言いますと、発達はさまざま、発達ダイバーシティとっていろいろな子どもたちがいるのですが、さまざまな市民の御理解が足りないところ、足りないというか機会がないことがございまして、例えばみんなでいじめを防ごうとか、いろいろな人たちがこの町に生きていて、どうやって支え合おうとか、そういうようなワークショップなど短いものでいいかなと思いますから、私たちのほうで市民に対して発信していく場として、日ごろから考えていくのは非常に重要かなというふうに思いました。

いろいろ発想が膨らみましたが、すてきな提案をいただいたからだと思いますので、今後に期待しております。

村松委員 時代の状況に対応した図書館運営業務、委員さんがお話しているのとも重複しますが、先ほど体力向上の話と似通ってきてしまうのですけれども、静かな図書館の限界、親子が伸び伸びと本を選べる空間の確保、また中高生が集いグループで話をしながら学ぶスペースの実現、とても大切だと思うのです。最近お子さん連れで読み聞かせですとか、赤ちゃんに絵本を見せているお母さん方の姿をよく見ま

すが、お母さん方も本を読んで、まずは子どもに読んで聞かせて、これがいいとか、あれがいいとか、そういうものを話しながら聞かせながら選ぶ。そういう図書館であってほしいなというのと同時に、居場所がなくて困っているお子さんがいらっしゃいますので、そういった子たちが図書館に来て、まずは子ども同士のコミュニティをつくるですとか、わいわい話しながら授業の宿題ですとか、そういうのに取り組んでいけるような図書館にしてもらいたいというのが一番の願いなのです。

もちろんサードプレイスですとか、いろいろな複合施設も考えてつくっていくのもそうなのですが、まずは本を読む習慣は読み聞かせからだと思うのです。まずはお母さん、または土日にお父さんが子どもを連れて行って読み聞かせてあげるとか、そういったことも非常に大事だと思いますので、受験勉強している方とか静かに読みたいという方たちもいらっしゃいますので、中央図書館に読み聞かせのスペースみたいなのはありますよね。おはなし会とかする場所がありますよね、ああいうところを開放して、そういう子どもたちが話しながら本を選んだり読んだりできるような、そういうスペースが、これから大変重要になってくると思いますので、八王子の図書館に騒げるスペースもつくってみたいというふうな思いがあります。

安間教育長　ほかに御追加、御意見ございませんか。

村松委員　たしか星山委員がアメリカのほうで子育てをされているときに、よく図書館に通われて居心地がよかったというふうに聞いていたのですが、どういうふうに居心地が良く、通おうと思われたのでしょうか。

星山委員　私も異国で0歳児だったのですけれども連れて暮らすということになったとき、最初に行ったのは図書館でした。図書館に行くと、まず友達ができるから、情報が得られるから、それから必ずワークショップスペースがありまして、毎日のように。歌を歌ってくれたり、ギターを弾いてくれたり、絵本を読んでもくれたり。日本でいう子育て支援センターと機能はかぶっているのかもしれませんが、毎日行っていました。図書館に行けば、とにかく何とかなるという、そういう気持ちでした。

村松委員　お母さん方も一人で子育てされていたり、一番大変な時期だということもありますけれども、同じ仲間がいるだとか、子どもが騒いでも本を読めるだとか、

そういう日本にはない機能をつくっていただきたい。赤ちゃんのころから本を読んで聞かせて見せてあげれば、小学校、中学校と少しでも図書館に通っていただけるような、そんな習慣づくりができると思いますので、まずは、そのころから大事にしていただければと思います。図書館に通ったとき、図書館という空間は無機質というか、少し静かな場所なのですが、受付を通る際に受付の方たちが少しでもにっこりしてくれて、帰るときもにっこりしてくれて、借りてよかったとか、またここに来ようかとか、そういう雰囲気づくり、重要なことだと思いますので、笑顔で接していただいて、特にお子さんとか、いらっしゃいとか、気をつけて帰るのだよ一言かかけられるような、そういう図書館になってもらいたいというふうに思います。

安間教育長 教育委員の思いのほうも踏まえて進めていただきたいのですが、本日は図書館部の熱い思いを委員の皆様方に聞いていただいてからスタートですので、今後とも、この話が今日からスタートですから、まだ決定したものは何もないので、これからどんどん話し合いを深めていって、来年度になりましたら、例えばいろいろな場面で、市長にも私たちの話を聞いていただく、そのように発展させていって、今後も図書館のあり方についてをスタートして、具体化をするスタートにさせていただければというふうに思います。

それでは、以上の協議を踏まえて今後とも事務を進めていただければというふうに思います。

それでは、協議事項2点を終わります。

以下、報告事項となります。保健給食課から4件、報告をお願いします。

まず4件のうち最初の3件、表彰の関係でございますので、相互に関連しておりますから一括で報告をお願いいたします。

野田保健給食課長 それでは、平成28年度八王子市学校保健会表彰の受賞校の決定について、並びに平成28年度東京都教育委員会表彰（健康づくり功労）の受賞校の決定、平成28年度全国健康づくり推進学校表彰の受賞校の決定につきまして、関連がございますので3件続けて御報告させていただきます。

まず初めに、八王子市学校保健会表彰の資料から、申し訳ございませんが3枚おめくりいただきまして、過去の推薦校及び受賞校一覧をご覧ください。この表は、

今回御報告いたします各表彰をまとめたものになっております。左から八王子市、東京都、全国ということになっております。

表彰の成り立ちにつきまして、由木西小学校を例にとって御説明させていただきます。年度をさかのぼりまして平成26年度の欄をご覧ください。由木西小学校は平成26年度に八王子市表彰を受賞し、東京都に推薦をいたしました。その翌年、東京都表彰で受賞したことから、日本学校保健会表彰に推薦し、今年度表彰されました。各受賞校は翌年に推薦をしていくという仕組みとなっております。これを踏まえまして、最初の資料にお戻りいただきまして、表彰3点につきまして御説明させていただきます。

まず1点目です。平成28年度八王子市学校保健会表彰の受賞校について御説明いたします。

まず、選定方法でございますが、各学校の保健に関する教育目標、学校保健安全計画、学校保健委員会の活動など、提出された学校保健活動の状況調査をもとに、八王子市学校保健会の理事であります学校内科医、学校歯科医、学校薬剤師、小・中学校長、小・中養護教諭、栄養士、指導主事から成る表彰委員会を開催し、すぐれた保健活動や特色ある保健活動をしている学校を審査し、八王子市学校保健会優良校等表彰要綱に基づき、優良校として小・中各1校、努力校として小学校4校、中学校2校を決定しております。今年度の優良校は、横山第二小学校と川口中学校でございます。

受賞校の主な取り組みでございます。横山第二小学校では、学校内外で協力し、健康の保持・増進に向けた取り組みが行われている。また、校長室での全員会食などを実施するなど、全校児童の健康状態の把握に努め、アレルギー対策などに役立っている点が評価されました。

次に、川口中学校でございます。学校保健委員会が充実しており、医療機関、家庭との連携も強く感じられ、さまざまな保健活動を展開している。また、生徒が朝礼などで保健衛生に関する呼びかけをするなど、主体的に保健活動が行われている点が評価されました。

努力校は第一小学校、大和田小学校、館小学校、由木西小学校、館中学校、松が谷中学校となっております。

裏面をご覧ください。2月9日開催の学校保健大会におきまして表彰を行いました。優良校2校につきましては来年度、東京都表彰に推薦をいたします。

続きまして、平成28年度東京都教育委員会表彰（健康づくり功労）の受賞についてでございます。今年度は大和田小学校が学校保健、学校安全分野の優秀学校として表彰を受けましたので、御報告いたします。こちらは学校保健、学校安全及び学校給食の指導運営等を通じてすぐれた功績がある学校関係者、学校関係団体及び組織的・計画的に児童・生徒の健康づくりに取り組む学校等を東京都教育委員会から表彰するものでございます。

本市では、先に報告しました八王子市学校保健会の表彰を受けた優良校の2校を翌年の東京都の表彰に推薦をしております。今回受賞となりました大和田小学校は、平成27年度の八王子市学校保健会表彰の優良校となります。

それでは、主な取り組みでございます。児童の心の健康のため、また、いじめゼロ・不登校ゼロを目指すため、学校長が1学期に6年生を対象に全員面接を行っています。また、全校児童を対象に、基本的な生活習慣の向上のため、5月、9月及び12月に「健康な生活週間」を設定し、継続している。早寝、早起き、朝ごはん等について表に記録させ、その結果を集計し、保健だよりや保護者会資料に掲載して保護者への啓発も図っている。歯科校医による4年生対象の歯磨き指導、学校薬剤師による2年生対象の薬の話、3年生対象の禁煙禁酒の話など、学校医、学校薬剤師と協力して毎年計画的に実施している。

このような取り組みから、今回優秀学校として表彰されました。

なお、大和田小学校が表彰されました学校保健、学校安全分野としましては、健康づくり優秀学校が小学校2校、義務教育学校が1校の計3校。健康づくり優良学校が小学校2校、中学校1校、特別支援学校1校の計4校。東京都内で合計7校が表彰されております。次年度は、日本学校保健会が主催します全国健康づくり推進学校表彰に推薦を予定しております。

続きまして、平成28年度全国健康づくり推進学校の受賞校です。平成26年度に市の優良校となりまして、東京都の表彰結果等も参考にし、本市学校保健理事会において会長の意見をいただき、推薦をし、このたび由木西小学校が受賞いたしました。

主な取り組みでございますが、学校敷地内の畑を使用し、親子で野菜を育てることを継続して実施しているほか、児童が収穫したモチ米で餅つき大会を行うなど、食育に力を入れている。また、体育の授業参観日を設け、体育の授業を保護者に公開したり、中学校と連携した部活動を毎週実施したりするなど、積極的に体力づくりに取り組んでいる。児童数も教職員数も少ない中で、保護者や地域と連携した活動ができていた点などが評価されました。

なお、全国規模で行われました、この表彰の受賞校でございますが、最優秀校が全国で6校、優秀校は10校、優良校は81校になります。81校の中で東京都は由木西小学校を含めて4校でございます。

報告は以上となります。

安間教育長　　ただいま保健給食課からの報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。

柴田委員　　質問なのですが、1枚目の資料、八王子市の学校保健会の表彰についてなのですが、川口中学校のところで、家庭との連携が強く感じられるのですが、学校保健だよりを配布すること以外に、例えばどういう取り組みをしているのか教えていただきたいと思います。

野田保健給食課長　　川口中学校のほうは学校保健委員会を開催しておりまして、通常ですと保護者代表1名が入る例が多いのですが、こちらは12名が入った中で、中学校で12名というのはかなりの率だと思うのですが入って、そのときに歯科医ですとか学校医からの意見交換を活発に行っております。

安間教育長　　ほかに何かございましょうか、よろしゅうございましょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　　それでは改めまして、受賞された学校に対して教育委員会一同、心よりお祝いを申し上げて、報告として承らせていただきます。

それでは続きまして、保健給食課から御報告をお願いします。

野田保健給食課長　　それでは、学校給食における「姉妹都市献立」の提供につきまして、主査の安齋から御報告させていただきます。

安齋保健給食課主査　　それでは、御報告いたします。資料をご覧ください。平成29年2月から5月までの4カ月間、市内の小・中学校の学校給食で「姉妹都市献立」

を実施いたします。本市では、豊かな人間性や健康や体力を育むとともに、それらを支える食を通じた学びを推進しているところですが、今回は市制100周年を迎えるよい機会に、自分たちの住む町の歴史・伝統・文化を学び「ふるさと八王子」への郷土愛を深めることを目的として取り組みます。

また、姉妹都市の郷土料理や特産品を取り入れたメニューを食べる経験を通して、食への興味や関心を育てます。

献立名は(2)の表のとおりです。2月は、江戸時代から八王子と深いつながりがある栃木県日光市の献立を実施いたします。栃木県が生産量第1位であるかんぴょうを甘く煮て御飯にまぜた郷土料理、下野御飯、日光市の名産である湯葉を使ったお浸し、美しい形や鮮やかな赤で有名はイチゴ、とちおとめを給食で提供いたします。3月は北海道苫小牧市、4月、5月は昨年10月に姉妹都市となった神奈川県小田原市と埼玉県寄居町の郷土料理を提供する予定です。

裏面をご覧ください。こちらは、各教室で活用する2月の食育教材の抜粋です。日光市のこと、八王子とのつながりや、また郷土料理について学ぶために作成いたしました。下の写真は、2月8日、水曜日に第五小学校の6年生で取材を受けたときの児童の様子でございます。昨年6月に移動教室で日光を訪れている6年生は、お互いに日光の思い出を語りながら、うれしそうに給食を食べていました。今後も、この姉妹都市献立を通して、八王子市との結びつきや姉妹都市の食文化を学ぶ機会としていきたいと思っております。

報告は以上になります。

安間教育長 　　ただいま保健給食課からの報告は終わりました。

本件について御質疑等はございませんか。

村松委員 　　2月は栃木県日光市ということですね。食材は、実際に栃木県の物なのですか。

安齋保健給食課主査 　　とちおとめのイチゴは、栃木のものを使わせていただいておりますが、かんぴょうも栃木県産のもので、そのほかは、1食の予算がありますので、その中でしております。

村松委員 　　給食業者の努力、敬意を表しますけれども、なかなか食材1つをとって取り寄せたり調理をするというのも難しいと思っておりますが、子どもたちの食育のため

にぜひ頑張っていたいただければなというふうに思います。

あと、姉妹都市献立ごとに市内小学校に取材が来る予定とあるのですが、栃木県でしたら栃木県の新聞社とか取材陣が入っているのですか。

安齋保健給食課主査 栃木県、北海道の記者がということではなく、今回はJCOMさんが来てくださったのですけれども、月ごとに担当していきまして、お受けできる体制を整えていきたいということです。

村松委員 なぜ聞いたかといいますと、実際に現地の取材の方たちが来てくだされば、子どもたちに栃木県のいいところはどこですかとか、逆取材をしたりとか、いろいろな交流ができると思うので、そういう方たちもぜひ来てもらえて何か交流できれば、子どもたちのためになるのではないかなというふうに思いました。

安間教育長 ほかに何かございましょうか。

星山委員 いつものことながら大変工夫されていて、給食といいますが食というのは家庭的というか一番愛情が伝わりやすいかなと思いますし、こちらの見せていただいた子どもたちの表情が見えているだけではなくて、社会教育的ないろいろな情報も上手に取り入れてくださって、非常にいい取り組みではないかなと思います。今後もよろしくお願いします。

柴田委員 子どもたちにとって給食の時間は、1日の中で楽しみな時間だと思います。こういった時間を、このようにデザインしてくださっていることはとてもありがたいと思いますので、これからもわくわくするような給食を楽しみにしています。

安間教育長 評判がいいので、これからもぜひ頑張ってください。

ちなみに中学校は、デリバリーになっているのですよね。

安齋保健給食課主査 2月に関しましては8日に、同じく栃木県の郷土料理をデリバリー給食で提供しています。3月以降も実施いたします。

安間教育長 ありがとうございます。それでは、報告として承っておきます。

続きまして、教育支援課から報告をお願いします。

穴井教育支援課長 それでは教育支援課からは、特別支援教育地域講座の開催について報告をさせていただきます。山田主査のほうから御説明いたします。

山田教育支援課主査 それでは、御説明いたします。本市では平成28年度から、八王子市第三次特別支援教育推進計画を策定し、特別支援教育の充実に取り組んでお

り、小・中学校での特別な支援の充実が求められております。また、就学前の保護者からの相談も増加していることから、小学校入学後の特別支援教育に関する理解や、保護者の不安に寄り添うことを目的に、地域講座を開催することにつきまして御報告させていただきます。資料の裏面に、当日のチラシ等を掲載してございますので、ご覧いただければと思います。

「もうすぐ小学生！知っておきたい特別支援教育」をテーマに開催いたします。開催日時は3月4日、土曜日、午前10時から12時、会場は教育センター大会議室となっております。対象者といたしましては、入学前のお子さんの保護者の方、幼稚園、保育園、学校の教員、保育・教育・福祉などに携わっておられます関係者の方となっております。それと、テーマに関心のある方を対象としております。定員は100名、事前に予約をお願いしております。講師の方でございますが、NPO法人かたつむり理事長西村南海子氏、それと教育支援課粟澤となっております。

報告は以上となります。

安間教育長　　ただいま教育支援課からの報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。

星山委員　　2点ほどお願いします。大体このような企画は、今度1年生になる保護者の方をターゲットとしていらっしゃる、仕事をされていると思うのですが、大体どれぐらい来参加者がいらっしゃるのですか。

穴井教育支援課長　　定員は100名というふうにしております。およそ100名来ればいいなというふうに思っていますが、昨年度はちなみに35、6名の方にお見えいただいています。今年度の就学相談に参加されている保護者の方々が、昨年と比べるとかなり増えていきますので、今年は団体からのお申し込みを受け付けていますが、もう少し増えるかなというふうに考えてございます。

星山委員　　企画自体とてもいいと思いますし、本当に多くの方に1回聞いていただければと思うのですけれども、現状として、ここに参加できない方、何割かいらっしゃいますし、八王子も広いので新1年生というのは保護者に対して理解啓発するチャンスかなと思いますので、今後も講座を続けていただきたいと思いますが、もう少しきめ細やかに、全部教育支援課がやるというわけではないかもしれませんが、いろいろなところで新しい1年生に新しい理解の啓発、保護者の方たちに知ってい

ただく試みというのを市として考えていかなければいけないかなと思っておりまして、今後よろしく願います。

穴井教育支援課長　このほかに実際としては、八王子のほうに呼ばれた出前講座、あるいはセミナーで、いろいろな保育園での出前講座は実施をしているところがございます。今後も、もう少し充実を図っていきたいというふうに思います。

安間教育長　星山委員からも話がありましたけれども、縦割りに完全にしないで、恐らく、これがめぐりめぐって、しばらくたつと学校では校長先生方が、こういうような相談を前もって受けていけばよかったのになというような課題をおもちになる。それは、その時期になってからでは遅いわけで、こういった手だてがあるわけですから、なるべく早いうちに手だてを周知していくというのは縦割りではできないことですので、我々全体で考えてまいりましょう。

それでは、報告として承っておきます。

続きまして、指導課から2件、御報告をお願いします。

中村指導課長　平成28年度、八王子市立小中学校合同作品展第12回「おおるり展」の実施結果について、担当の金子主査から報告いたします。

金子指導課主査　配付しております、八王子市立小中学校合同作品展、第12回「おおるり展」の実施結果の資料に沿って報告させていただきます。

開催日時ですが、平成29年1月26日、木曜日から30日、月曜日までの5日間、午前10時から午後8時、最終日は午後3時30分まで開催いたしました。会場はエスフォルタアリーナ八王子の多目的室及び会議室でございます。多目的室では図工、家庭科、美術、会議室では書写を展示いたしました。出品校数ですが、書写41校、家庭科33校、図工と美術については、それぞれ全校で出品をしております。出品合計数は、昨年度より47点増えて4,934点でございます。また、小学校PTA連合会が川柳、中学校PTA連合が科学コンクールの入選作品を出品いたしました。来場者数ですが、今年度は1日目が1,009人、2日目が1,170人、3日目が4,647人、4日目が6,185人、5日目が787人となり、5日間の合計は1万3,798名でございます。昨年度と比べて来場者数が減少しているのは、昨年度は学園都市センターで開催し、受付を3カ所で行ったため、今年度との集計方法が異なり、それぞれの受付で集計した来場者数の延べ人数を来場

者としているためでございます。また、今年度と同じエスフォルタアリーナ八王子で開催した平成26年度と比較いたしますと、来場者数は若干ですが増えております。

次に、裏面をご覧ください。アンケート結果ですが、アンケートの回収数は3,228枚でした。(1)の記入いただいた方の内訳ですが、小学生967人で30%、中学生243人で8%、保護者1,483人で46%、一般444人で14%となっております。

(2)の「おおむね展をご覧ください、いかがでしたか」という質問に対しての回答ですが、「とてもよかった」「よかった」の合計が95%となり、おおむね好評であったかと思っております。

次に、主な御意見ですが、申しわけございません、1の展示方法について展の字が抜けておりました、申しわけございませんでした。改めましての展示方法については、「見やすかった・よかった」、合わせまして1,012件、「学校ごとに分かれていてよかった」42件、「きれいに展示されていた」27件などの御意見がございました。改善方法としましては、「足元の作品はぶつかりそうで危なかった、見にくかった」93件という御意見がありました。

2の作品についてですが、「素晴らしい作品だった、とてもよかった」、合計しまして598件、「個性豊かな作品がよかった」109件、「力作が多かった」39件など、児童・生徒の作品に感動された御意見が多くありました。

3の会場についてですが、「広くてよい」416件、「よい」217件、「駅に近くてよい、便利だった」144件、「きれいでよい、明るくてよい」111件など、おおむね好評でしたが、「八王子駅近辺のほうがよい」という御意見も54件ございました。

開催時期・開催時間についてですが、「よい」が560件、「夜8時まで見られてよい、週末に見られてよい」192件、「もう少し開催期間が長いとよい」177件などとなっております。

その他といたしまして、「子どもたちの生き生きした作品に感動した。」、「いろいろな作品を見て勉強になった。自分の作品が選ばれてとてもうれしかったので次からも頑張ろうという気持ちになった。」、「子どもたちの能力の高さ、センス

のよさ、個性が出ていた。その才能をもっと引き出す機会があるとおもしろい。」、「子どもたちの喜びにつながるよい企画です。」などの御意見がありました。

今回のアンケートでいただいた改善要求については、次回以降実行委員会で検討し、改善策を考えていきたいと思えます。受付担当のPTAの方々、準備、撤収作業を行っていただいた先生方、各課からの応援職員の皆様の御協力により、5日間を無事に終えることができました。また、準備、撤収作業についてはエスフォルタアリーナ八王子の1階フロアであるという利点により、速やかに行うことができました。

平成29年度についてですが、平成30年1月18日、木曜日から22日、月曜日まで、会場は本年度と同じエスフォルタアリーナ八王子多目的室及び会議室を予定しております。

報告は以上です。

安間教育長 ただいま指導課からの報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。

柴田委員 児童・生徒のすばらしい作品が展示されていて、見ていて楽しい展示会でした。本当にセンスのよさとか、各学校の指導の個性というものが見られましたこともよかったのですけれども、そういった児童や生徒のよさを互いに勉強し合うとか刺激し合うという場にもなってほしいなと思いましたので、多くのお子さん方に見て頂いて、自分たちの通う学校以外のところではこういう作品をつくっているんだというヒント、発想を得たりしてもらいたいと思えます。

このおおるり展は主に小学校、中学校の図工や家庭科や書道とか美術の先生方によって実行委員会方式で開催されているというふうに聞きましたので、せっかく、こういう先生方の交流という機会もございますので、日ごろの指導上の創意工夫というようなことの意見交換とか、例えば個人的に作品を交換し合って、各学校で、その場に足を運べない児童や生徒さんに見せてあげるといったような交流なんかも行われれば、さらによくなるのではないかというふうに思いました。

場所についてなのですが、やはりニュータウン方面の方にとっての利便性というのがあまりよくないのかなというふうに思いましたが、ベストな場所というのはいろいろなことを考慮すると、例えば展示もエスフォルタアリーナ八王子であれば今

回二つの部屋で、ゆとりのあるスペースでできたとか、保護者の方もかなり協力されていましたが、保護者の方の負担というものもエスフォルタアリーナ八王子のほうが少ないのかなというふうに思いまして、場所の設定ということは難しいのかなというふうな意見をもちました。

安間教育長　ほか、ございましょうか。

村松委員　指導課の皆さん、本当に御苦労さまでした。また、小P連、中P連の皆様、ボランティアの皆様、本当にたくさんお手伝いをいただきまして、無事にことしも終了して感謝しております。

　　昨年学園都市センター、私も受付のお手伝いをさせていただいたのですが、比べてはだめかもしれませんが、やはり2万7,000人去年来ているのです。この勘定が重複している可能性もたくさんあると思うのですが、それにしても駅前という集客力に関して、学園都市なのかなとも思うのですが、昨年と比べて図画工作、学園都市センターよりエスフォルタアリーナ八王子のほうが飾れるのではないかなと思ったのですが、逆に美術の260もプラスになっています。

　　昨年と比べて増減、図画工作と美術が逆転したのですが、何か理由があるのでしょうか。

金子指導課主査　出品の選定などにつきましては、それぞれの学校ごとに選定をお任せしております、専科の先生の選出状況によって違うと思いますので、一概に出品校のプラス、マイナスがどういう状況かというのは、申しわけございませんが、お答えすることができないという状況です。

村松委員　わかりました。つぶさにいろいろなことでフィードバックも大事だと思いますので、その辺を検討してみてください。

　　あと裏面のほうの、おおるり展のアンケート、「おおるり展を御鑑賞いただいていかがでしたか」、「とてもよかった」、「よかった」という感想の方が多かったのですが、逆に、「あまりよくなかった」16件、「よくなかった」11件あるのです。これは何か理由が書いてあったりしたのですか、会場についてとか開催時期についてよくなかったとかいう話なのですか。

金子指導課主査　例えばなのですが、あまりよくなかったという御意見ですと、時期的なものでインフルエンザの季節であるとか、あとは中学校3年生の出品作品

はあるが、受験を控えていて見るできない期間だったりとかというふうな御意見もいただいております。

村松委員 どちらが立てればどちらがということになってしまいますので、それは、この時期に開催しているというのは、いつもの前提ですので、このままエスフォルタアリーナ八王子等でやっていければと思います。

開催時間もそうなのですが、前回の学園都市センターのときは8時ぐらいまでやっていたのでしたか、同じでしたか。やはり駅前ということで来場者数も格段に上がったという、そういうことだと思うのですが、これをするとボランティアの方や受付の小P連、中P連の方たちも交代制ですので、夜にお子さんに御飯をつくったりお風呂に入れたりとか、そういうことも考慮しなければいけないので、8時というとなかなか遅い時間帯であるのですが、皆さんが頑張っただけで受付をしてくださっていますので、このぐらいが限界かなというふうにも思いますので、その辺は丁寧に、これ以上時間を延ばせないのといったら、いろいろと説明していただければいいかなというふうに思います。

安間教育長 よろしゅうございますか。

私自身も、こういうような小・中学校の美術展覧会というのは、去年東京都全体のものを見に行ったのですが、それに負けない規模で作品が飾られていて、ことしは土曜日の夕方に見に行ったのです。人もたくさんいらっやあって、特に三世代で喜んでる姿を見ますと、本当に開催していただいた方々に感謝したいなというふうに思いました。特に小P連、中P連の皆様方は手弁当でありありがとうございました。

前回もお話させていただいたのですが、出品数だとかが何点増えたとか何点減ったと言ったって会場が決まっているのだから、会場がどんどん広がっていくのだったら出品数もどんどん増えてもいいわけで、そういうふうな問題もありますから、それで一喜一憂したくないですし、逆に会場が違って、受付3カ所でした数字と、今回のように一本化しているところの数字を単純に比較して一喜一憂も、私はしたくない。

ただ、こういったデータをとる以上、出品数で書写と図画工作と家庭科と美術の割合とか、そういったものに注目して、先生方の中で配分を決めていくとか、そう

というようなデータにすることは大変必要なことだろうし、逆にエスフォルタアリーナ八王子のときに平日の夜だったら1,000人なのです。ところが土日になると5,000人近くになると、今度は体制の仕方は5,000人だから、こうだとか、そういうような形に生かすような数字ということにして、せっかくボランティアで受付とか頑張ってくださっていたのに、去年より1万4,000人ぐらい減ってしまったと言ったらがっかりされてしまいますから、我々が、そのことを第一に気にするということは無にして、何よりも子どもたちの笑顔、これを大事にするということやってまいりましょう。

それでは、報告として承らせていただきます。

続きまして、指導課から報告をお願いします。

斉藤統括指導主事　それでは、第8回中学生「東京駅伝」大会の結果について報告いたします。

第8回「東京駅伝大会」は、平成29年2月5日、日曜日に、調布市にあります味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園特設周回コースで行われました。女子の部は距離30キロを選手16名で、男子の部は42.195キロを17人でタスキをつないでまいりました。午前中行われた女子の部では、1区で20位のスタートからでした。しかし徐々に順位を上げ、13区から15区では一時首位になるなど健闘し、結果は1時間51分46秒で2位となりました。また、午後に行われた男子の部では、1区で29位からのスタートでした。女子と同様に順位を上げ、7区、15区で首位になりましたが、その後逆転を許し、結果は2時間20分33秒で4位となりました。女子のタイムと男子のタイムを合わせた総合の部では、男子・女子がともに優勝した江戸川区、そして準優勝の町田市に続き第3位でした。

裏面に、過去の大会結果について載せておりますが、本市は、これまで総合の部で必ず3位までに入っております。これは、全ての参加自治体の中で本市だけであり、本大会でも、この伝統を守り通すことができました。八王子市は、これまで2回の選考会、8回の練習を行い、総合優勝という目標に向かって選手、監督、コーチが一丸となって頑張ってまいりました。目標には惜しくも届かなかったものの、男子・女子とも過去最高のタイムをたたき出し、今大会から創設された各区市町村における前年度までの最高記録を更新した男子チーム、女子チームに与えられる特

別賞を受賞することができました。その意味では、選手一人ひとりが全力を出し切ったすばらしい大会だったと考えております。

なお、平成29年2月16日の木曜日、午後2時20分から選手、監督、コーチが市長を訪問いたしまして、この結果について報告させていただく予定でございます。

報告は以上です。

安間教育長　　ただいま報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか、よろしゅうございますか。

全員一致の気持ちですけれども、選手諸君の健闘をたたえます。私も見に行きましたけれども、あまりにも中学生のレベルでいうと早過ぎるなと思う他地区の選手がいました。これはいたし方ないです。うちの子がかわいく思いましたが、過去最高の記録を出したということは立派です。過去の先輩たちが走ったものより、今年の子たちが早かったというわけです。ぜひ皆様方も、学校訪問とか、そういうような機会があったときに、頑張った選手諸君と触れて、ほめていただけるような、そんな心がけをお願いいたしたいと思います。

それでは、報告として承らせていただきます。

それでは、教職員課から2件。

廣瀬教職員課長　　それでは、私のほうから2件報告させていただきます。

1件目、八王子市立学校校長の職務代理等の報告についてでございます。

御説明させていただきます。八王子市立上壱分方小学校において、校長が療養休暇することにより不在になるので、八王子市立学校の管理運営に関する規則第7条第5項第1号の規定に基づき、同校副校長が校長の職務を代理する旨の報告が学校よりございました。期間については当分の間とさせていただいておりますが、職務代理を終了する際、改めて報告させていただきます。

なお、療養休暇の詳細につきましては個人情報に関することになりますので、この場での説明を控えさせていただきます。

報告は以上です。

安間教育長　　ただいま報告は終わりました。

本件について特に御質疑はございませんか、よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　それでは卒業式も近いものですし、子どもたちに負担がかからないように、全力で事務局のほうは支援をしてあげてください。

引き続き報告をお願いいたします。

廣瀬教職員課長　2件目でございます。死亡者叙位の受賞についてでございます。

受賞者でございます。元八王子市立浅川中学校長上野義臣、享年90歳、受賞内容、正六位、叙勲につきましては平成17年11月3日に瑞宝双光章を受賞されております。発令日、平成29年1月13日、金曜日、死亡日でございます。この先生の経歴でございますが、教育公務員歴38年と11月、校長歴11年、昭和52年4月稲城市立稲城第二中学校長を4年間、その後、八王子市立第一中学校長を4年、それから八王子市立浅川中学校で3年、八王子市で7年間校長先生を務めていただいた方でございます。報告は以上です。

安間教育長　報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか、よろしゅうございましょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　それでは、本市のために尽くしていただいた先生に心から御冥福をお祈りしたいと思います。

これで公開の審議は終わりますが、委員の方から何か御提案等はございますか、よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　ないようであります。

それでは、ここで暫時休憩ということにいたします。

なお、休憩後は非公開となりますので、傍聴の方は退席をお願いいたしますけれども、本日は土曜日、お休みの中、傍聴にお集まりくださりまして本当にありがとうございます。今後とも教育委員会に対する御理解、御支援をよろしくお願い申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。

それでは再開は16時10分からにさせていただきます。

【午後4時00分閉会】